

平成27年度 明倫小学校 第1回学校関係者評価委員会

平成27年8月28日（金）開催

■学校関係者評価委員

榮 中	明倫小学校 P T A 会長
中村 尚子	明倫小学校 P T A 副会長（欠席）
三上 智奈美	元明倫小学校 P T A 副会長 主任児童委員
村田 明美	萩市児童クラブ指導者 萩市人権擁護委員
畠川 芳人	元県 P T A 連合会会長 元明倫小学校 P T A 会長
岩崎喜一郎	元明倫小学校 P T A 顧問（欠席）
大嶋 栄	前明倫小学校 P T A 会長
石丸 智子	萩市立児童館 N P O 萩子どもセンター理事（欠席）
梅地 信吾	元明倫小学校長 元児童相談所相談員
吉賀 博史	元明倫小学校長 退職校長会萩支部副支部長
斎藤 嘉敬	萩東中学校教務主任
荒瀬 龍治	萩西中学校生徒指導主任
河名 哲雄	萩幼稚園園長
椿 義憲	明倫小学校 校長
矢野 憲文	明倫小学校 教頭
中谷 仁美	明倫小学校 教頭

■本年度の重点目標について

特色ある学校づくり	松陰教学の推進・積極的な分かりやすい情報発信
学力の向上	授業改善・家庭学習の充実
心の教育の充実	明倫小 A B C の充実と発展（7mのあいさつ・無言清掃・目標挑戦）
安心・安全な環境づくり	教育相談や生徒指導の組織的関わり・落ち着いた学校生活

■学校関係者評価委員会での主な意見

○ 特色ある学校づくりについて

- ・ 掲示、学習活動等から、どの学年も松陰教学を実践に結びつけていることがうかがえる。これは、児童も保護者も自慢できることである。

○ 学力の向上について

- ・ 小学校の時の習慣づけが大切である。児童の自主的な取組を促していきたい。
- ・ 教師に比べて保護者の児童に対する期待が高いのは、当然のことである。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果と関連づけて評価していく必要がある。

○ 心の教育の充実について

- ・ 地域で児童はよくあいさつをしている。
- ・ 「7mあいさつ」という具体的な取組が浸透していると言える。
- ・ 大人からあいさつをすると、特に高学年児童から躊躇無く返事が返ってくる。取組の積み重ねで意識は高まっている。このことは、中学校でも継続されている。
- ・ 地域の高齢者の中には、「児童のあいさつから元気をもらっている。」とおっしゃる方もいる。地域貢献の一端を担っている。

○ 安心・安全な環境づくりについて

- ・ 各クラスで起こった生徒指導上の課題については、事後の対応が重要である。
- ・ 児童や保護者からの訴えに対して、学校が対応していることを示すことが、信頼関係の構築につながる。
- ・ 訴えがあったことについては、即日対応を原則としている。
- ・ 放課後児童クラブとの連携も重要である。
- ・ 小さなサインを、大きなアンテナでキャッチすること、みんなで対応することが大切である。
- ・ 課題がある場合は、同学年を中心にチームで対応する。
- ・ 評価基準をもっと引き上げ、マイナス評価への対応を細やかにするべきである。
- ・ 危機管理について、外部からの訪問者等への声かけを教師から積極的にすること。

○ 業務改善

- ・ 校務の電子化に伴い、データ管理については慎重にすること。
- ・ 電子化によって業務改善されたことで、新たな仕事が入ってくる場合、児童にとって大切なことは何かを基準に考えることが大切である。
- ・ 学校現場の特徴として、児童が下校した後でない協賛等の時間が取れないことが、業務改善の難しさである。